



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第195号

発行:2022年7月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

患者とのかかわりから生まれる経験知

横浜ほうゆう病院 看護部長 原科 美津枝



横浜ほうゆう病院は認知症に特化した精神科の病院です。現在の社会問題として認知症の高齢者の増加が危惧されており、2025年には認知症を患う人が700万人を超えるとされています。そのような社会情勢で認知症の方々を受け入れる病院として

「認知症の方や家族が安心して家庭や社会で生活できるように支援する」役割があります。

当院に入院や通院する患者の症状は様々です。

「徘徊」「異食」「拒食」「大声」「暴力」「興奮」などケアや生活に支障を及ぼすことが多くあります。

先日、受診時に前腕が腫れて骨折が疑われた患者がおりました。骨折の診断のためレントゲン撮影が必要となりました。患者には認知症の行動・心理症状(BPSD)で徘徊、興奮、暴力があり、レントゲン室で興奮し撮影は出来そうにありませんでした。対応に戸惑っていると患者が突然、職員のピンクのユニフォームをみて「可愛い」と笑ったのです。そこで患者の気分が変わったのを察し、すかさず「褒めてくれてありがとう。一緒に写真を撮ろう。」と誘うと手が伸びてレントゲン撮影が出来ました。幸い骨折はなく安堵しました。また、その数日後に、今度は腕を腫らし痛みを訴える別の患者が現れました。やはり、レントゲン撮影をしようと試みましたが痛みがあるのか撮影できませんでした。そこで先日の経験を生かして「私も腕が痛い。一緒に痛いところをレントゲンに撮ってもらおう」と患者に声をかけ、握手をしてゆっくりと肘を伸ばし撮影に成功し

ました。

これらのケースのように認知症の方は状況の理解が困難で、痛みや体調不良を感じにくく、伝えにくいといった特徴があります。何かのきっかけで大きく気分が変化する傾向もあります。私たちは患者の表情や癖などの小さな変化を見逃さず患者の訴えに対応をしています。判断が遅れると手遅れになることもあります。しかし、人の行動や病状から変化を読み取るのは大変難しいことです。知識だけでは表情から感情を読み取ることはできません。

看護で「経験知」という言葉を聞きます。「経験知」は経験で感じたこと、学んだことを言語化し積み重ねていくことです。この「経験知」が認知症の患者への対応に効果を発します。当院の職員は、認知症患者の対応についての経験は豊富ですが「経験知」に変えることは苦手です。そのため経験知に繋がる教育を充実させる必要があります。また、在籍している「認知症ケア専門士」を中心に日々の患者とのかかわりの経験を積み重ね知恵とし、質の高い認知症ケアを提供したいと考えております。

2020年12月からは認知症疾患医療センター(地域)として地域への認知症の医療支援や啓蒙活動を、また、本年6月からは若年性認知症支援コーディネーターの支援活動も開始しました。多くの職員が地域に貢献ができるよう教育をしていきたいと考えています。

第17回 医療法人社団鵬友会 幹部研修会 開催

令和4年7月15日（金）に、令和元年7月以来3年ぶりに鵬友会 幹部研修会を、実地とオンライン（Zoom）の併用で開催しました。

今回の研修は、初めに池島常務理事より「一人前の管理者とは」をテーマに、幹部職員の心構えや、部下への興味関心を持ち、管理者と部下お互いが成長できる体制（方法）をつくるにはどうしたらよいか等を幹部職員へ力説しました。

次に、「Withコロナ時代の医療従事者の感染予防」をテーマに池島理事長が座長を務め、基調講演として、門馬感染管理認定看護師より、湘南泉病院での2年前のクラスター時の対応、その後、病院としてコロナに立ち向かっていく判断をし、神奈川モデル認定医療機関重点医療機関協力病院に認定、それから現在まで行ってきた数々のコロナ対応を述べ、最後に今年度改定された感染対策向上加算について説明しました。

基調講演終了後は、末盛 湘南泉病院長、石川 新病院統括看護部長、藤田 湘南泉病院事務部長、栗城 新病院副看護部長、門馬 感染管理認定看護師により、感染予防について、それぞれの立場から説明しパネルディスカッションを行いました。会場からの質問等もあり活発な会となりました。



池島 常務理事



会場全体



パネルディスカッション

令和4年度 第1回 感染対策地域連携カンファレンス 開催



令和4年7月15日（金）の幹部研修会終了後、今年の4月の診療報酬改定で設定された「感染対策向上加算1」の湘南泉病院と、「感染対策向上加算2・3」の連携病院、保健所、地域の医師会等と連携し、感染管理に関して相互の連携を推進することを目的とする【第1回 感染対策地域連携カンファレンス】を開催しました。

カンファレンスでは、多剤耐性菌、抗菌薬使用状況、感染症患者数などに関する情報及び意見交換を行いました。